

令和3年6月25日

報道機関 各位

富山大学のコロナ禍医療者教育をイノベーションとして報告しました

国立大学法人富山大学医学部・薬学部のグループ（中心メンバー：医師キャリアパス創造センター）は、コロナ禍での医療者教育イノベーションとして、ビデオをフル活用した新たな教育研究活動を報告しました。

本研究成果は6月25日、『医学教育』に掲載されます。

コロナ禍では、感染の危険性から医療系学生が一堂に集まって心肺蘇生法や、診察の基本を練習することが困難となりました。そこで、心肺蘇生や診察の基本を自宅等でビデオ学習し、マネキンを使って練習し、自らビデオ撮影したものを同級生や教員が評価するという全く新しい教育方法で実施し、例年の集合型の練習と同等の教育結果を得ました。

本報告は、コロナ禍で滞りがちな医療者教育だけでなく、他の実技訓練が必要な全ての教育組織にとって参考になると思われます。

つきましては、下記にもとづき取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

記

1. 発表内容

別紙資料のとおり。

2. 報道解禁時間

2021年6月25日

3. 研究に関する取材・問合せ先

富山大学医師キャリアパス創造センター
三原弘

E-mail: mighty [at] med.u-toyama.ac.jp

TEL: 076-434-7148

以上

別紙資料

1. 発表のポイント

- ・コロナ禍では、感染の危険性から医療系学生などが一堂に集まって実技の練習をすることが困難となっており、新しい教育手法の開発が急務となっている。
- ・本教育研究では、心肺蘇生法と診察の基本をビデオ学習と、ビデオ撮影とによってオンラインで実技訓練する手法を実施し報告している。
- ・オンライン心肺蘇生法訓練では、新入生約 300 名が自宅でビデオ学習後にマネキンを使用して練習し、自らビデオ撮影を行い、そのビデオを同級生や教員がオンラインで評価し、アンケート結果として能力向上が確認された。
- ・診察の基本の実習では、医学科 4 年生が自宅等でビデオ学習後、小グループで自由に実習室で練習を行い、自らビデオ撮影を行い、そのビデオを教員がオンラインで評価し、後日の実技評価で例年同等の能力向上が確認された。
- ・他の施設でも速やかに実施できるように実施セットが公開されている。

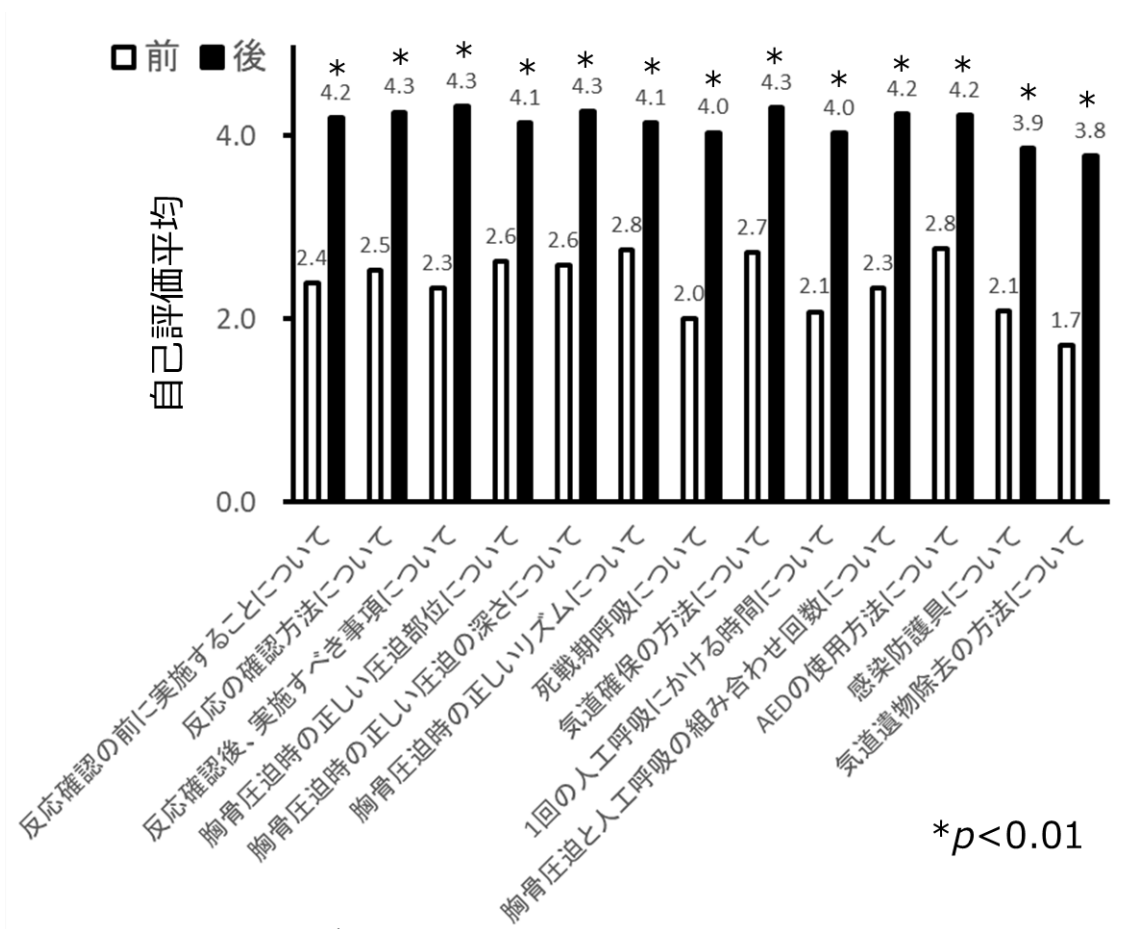
2. 研究の概要

コロナ禍で多数の学生が集合して医療実技の練習をすることが困難となったためビデオ学習してから、各自マネキンを使って練習し、自分の実技を自分でビデオ撮影したものを提出して、同級生や教員がその実技を評価するという新しい教育手法を導入した。自己学習用のビデオの提供は、大学の学習管理システム Moodle や、YouTube®の限定公開から行い、自分の実技ビデオの提出も YouTube®の限定公開から行わせた。心肺蘇生法の自分のビデオを同級生や教員と評価する場を、テレビ会議システム Zoom®を用いて行った。

それらの教育効果を評価したところ、実施した心肺蘇生法（図1）及び、診察の基本についていずれも例年通りの教育効果が確認された。

本報告は、コロナ禍で滞りがちな医療者教育だけでなく、他の実技訓練が必要な全ての教育組織にとって参考になると思われ、他の施設でもすぐに実施できるように実施セットも公開されている（図2）。

図1 心肺蘇生法練習会前後の自己評価アンケート結果



- 1聞いたことがない
- 2聞いたことはあるが覚えていない
- 3知識として知っているが実施したことはない
- 4正しい方法で実施できる
- 5人に教えることができる

図2 実施セットへのリンク先 (QRコード)



News Release



【発信】国立大学法人
富山大学総務部総務課広報・基金室
(TEL) 076-445-6028
(FAX) 076-445-6063

3. 発表論文

【論文名】

ビデオ学修・ビデオ評価による医行為訓練の教育実践—コロナ禍での新入生蘇生講習会と基本的診療技能実習—

【雑誌名】 『医学教育』誌52巻3号（6月）

【著者】

三原 弘、廣川 慎一郎、伊井 みず穂、若杉 雅浩、帯田 孝之、石木 学、岸 裕幸、北 啓一郎、関根 道和、足立 雄一

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学 医学部（第三内科）

三原 弘

E-mail: mighty [at] med.u-toyama.ac.jp

TEL. 076-434-7545